

—— 生活意識要因の分析 ——

松阪女短大 O上島雅子 川本栄子 渡辺澄子

目的 松阪市における高齢者の生活実態および意識はどのようなものであり、それらを構成する諸要因がどのような構造としているのかを明らかにすることと目的とする。すでに日常生活、家族関係、経済生活、生活意識については、各領域ごとに項目間の関連から検討を加え報告した。本報では、高齢者個人の生活意識項目への反応ともとに、これらに共通する諸側面をとらえ、意識を構成する要因として検討した。

方法 調査項目の設定、調査方法については前報と同様で、対象者の属性および7生活領域(日常生活、経済生活、家族関係、地域社会生活、健康状態、生活意識、生活環境)について74項目を設定した。その中から今回は、生活意識領域の項目と他の領域からも特に意識に関する項目を加え、計36項目100カテゴリーへの反応と数量化理論Ⅲ類を用いて有効な軸と析出した。さらに、その結果と高齢者のデモグラフィック要因との関連から分析した。

結果 生活意識における解釈可能な主要軸は、①生活満足度、経済満足度、家事満足度、職業満足度の各満足度に対して、満足、不満足と分ける軸。②家族に依存した考えと持っているか、そうでないかと分ける軸。③自己中心的な考え方、社会とも通じた考え方であるかと分ける軸である。これらの軸に対して、性別、年齢、学歴、家族型、配偶者の有無との関連について考察した。